**説教20231203イザヤ2：1-5マタイ24：36-44「神様だけが知っていること」**

**『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』洗礼者ヨハネが荒れ野に現れて、この様に叫ぶのを聞くとき、私たちは、イエス様のご降誕を待ち望む、アドベントのシーズンに入ったことを実感させられます。**

**今日の聖書箇所は、アドベントのシーズンによく読まれる箇所ですが、この箇所では、最後の日に、私たちが最愛の花婿であるイエス様にお会いできる再会の日、即ち、イエス様の再臨の日について語られています。**

**クリスマスという日は、赤ちゃんという人間としての愛すべきイエス様にお会いし、同時に、なんでもご存知の神様としてのイエス様にお会いするときでもあります。**

**イエス様が再臨される日と言うのは、終末の日とも呼ばれ、イエス様と私たちがお会いして、永遠の祝福に入るという、最高に喜ばしい日でありますが、同時に、今、私たちが目にしている一切のものが焼け落ちて、溶け去ってしまうという、大変化の時でもあります。ですから、今、終末の日が近いと実感する時、私たちは、終末の恐ろしさのほうに囚われて、それに負けてしまうことなく、益々、積極的活動的に、救い主イエス様がお生まれになったという喜びの良き知らせを、全ての人たちに告げ知らせていかねばなりません。そうすれば、私自身の喜びは増し加えられ、終末の恐ろしさに怯えることも少なくなることでしょう。**

**さて、イエス様は、今日のマタイの聖書箇所で、終末の日のことについて語られますが、その有様を、ノアの時と較べられています。今、終末の日が近いと実感する私たちと、ノアの置かれた境遇と言うのは、似ている処と異なる処がありますので、両者を較べていきましょう。**

**ノアの時と言うのは、旧約聖書の創世記に記されていますノアの箱舟の記述のことです。地上全体を覆う洪水を起こして全てのものを滅ぼされた神様は、ノアに好意を示して、彼と其の家族に箱舟を作らせて、その中に入れて、洪水から生き延びるようにされました。ノアが連れて来た動物たちも一緒でした。この様にして、ノアたちがこれから最後の日まで生き延びるように、ということが神様とノアとの契約だったのです。**

**このノアの箱舟の話を、分かりやすく語っているアニメなどを見ていますと、よく次のようなシーンが語られます。**

**「村の人たち、間もなく大洪水がやって来ると神様が言っています。皆さんも舟を作ってその時に備えて下さい。」「ノアよ何をバカなことを考えて、舟など作っているのだ。天気はこの通り晴れ晴れしている」と言って、村人たちは、舟を作っているノアを見てせせら笑いました。**

**実はこのシーンは、アニメの作者の創作でありまして、聖書には、ノアと隣人達とのやり取りは何も記されてはいません。ここのところは、とても大切な処でありまして、このノアの時代に、神さまは、ただ一人、ノアにだけ好意を示されて、ノアにだけ、最後の日まで生き延びるようにとの契約を結ばれたのでした。ですから、「村の人たち、間もなく大洪水がやって来ると神様が言っています。皆さんも舟を作ってその時に備えて下さい」とノアが言ったというのは、人間の創作でありまして、聖書の記述には反するのです。**

**こんな風に語りますと、なんと冷たいことを言われるのかと思われたかも知れませんが、それは全然冷たいことではないのです。確かに、ノアの時代は或る意味、この様に冷たいことを神様は、せざるを得なかったかも知れません。しかし、今や、私たちが生きるこの時代は、全員がイエス様が来られるのを待ち望む終末の時であり、今の時代には、イエス様は私たち一人ひとりに、「あなたの救い主イエス様が、間もなくやって来られます。どうかあなたもイエス様を信じて下さい」と、隣人たちに告げ知らせる福音伝道の業を行うように言われているのです。ノアは、口を閉ざして、黙々と箱舟を作り続けましたが、今を生きる私たちは、救い主イエス様のことを、積極的活動的に、隣人に告げ知らせるように、イエス様から求められているのです。**

**この様にノアと較べていきますと、今の時代を生きる私たちのほうが、はるかにイエス様と近くて、はるかに幸せであるということがお分かりになると思います。**

**今迄、ノアの時代と私たちとの異なる処を述べてきましたが、それではノアと私たちとの似ている処はどこでしょうか。この似ていることについては、イエス様が次の様に語っておられます。**

**マタイによる福音書 24章37節38節**

**人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。**

**つまり、ノアの時も私たちの時も、イエス様がやって来られるその日、その時は、人間には知らされておらず、その日まで人間は、食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしているということです。食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしているという私たち人間の姿は、ノアの時代から今の時代に至るまで変わらない生活であり、制度であると言えるでしょう。**

**食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりするという人間達の営みは、イエス様が思いがけない時にやって来られる終末の時まで続けられるようにと、イエス様は私たちに求められています。それは、私たちが一人も滅びないで、最後まで生き続けるようにとのイエス様の御計らいであります。**

**イエス様は、私たちが食べたり飲んだりしている日常の生活や、めとったり嫁いだりという私たちの人生の通過儀礼の一つひとつに目を留めて、そのことを見守っていて下さいます。ノアたちもその時代に箱舟を作りながら、食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりという日常の営みを止めることはなかったことでしょう。ノアたちは神様に言われたとおりに熱心に箱舟作りに従事しながらも、自分たちの日常の生活や人生を、変わることなく淡々と続けていたのではないでしょうか。**

**このノアたちの姿は、終末の時を感じながら今この時を生かされている、私たちにも共通する姿でありましょう。私たちも、熱心に、イエス様から言われている福音伝道の業を行いながらも、自分たちの日常の生活や人生を、今日も明日も、変わることなく淡々と続けていくのです。**

**イエス様は、私たちが、食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりという営みを続けていく事を喜ばれますが、そのやり方や振る舞いに十分注意して、わきまえなさいと言われています。**

**イエス様は食べたり飲んだりすることの喜びを積極的に肯定されています。イエス様はその喜びをもって、悲しみに対抗しなさいと言われています。**

**例えばネヘミヤ記では泣いている民たちに対して次の様に言われています。**

**「今日は、あなたたちの神、主にささげられた聖なる日だ。嘆いたり、泣いたりしてはならない。」「行って良い肉を食べ、甘い飲み物を飲みなさい。その備えのない者には、それを分け与えてやりなさい。今日は、我らの主にささげられた聖なる日だ。悲しんではならない。主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」**

**私たちは今の時代に、主の日に、聖餐と言う儀式にあずかって、イエス様の血と肉を頂きますが、この聖餐式で食べたり飲んだりすることも、イエス様から、喜びと活力とを分け与えられ、私たちが益々イエス様と一つとされるということであります。**

**しかし、イエス様は私たちのやり方や振る舞いにいつも目を留めておられます。私たちがいつもイエス様が再び来られる時の為に用意をしているかどうかは、私たちが食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりする営みのうちに自ずと表現されていることでしょう。**

**聖書には、イエス様のことを何とも思わない罪深い人々の姿も描かれています。そういった人々は、次の様に言うと聖書には記されています。**

**「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ明日は死ぬ身ではないか」（コリント一 15章 32節）皆さん、かつてどこかで実際に耳にしたセリフだと思われたかもしれません。**

**又、自分自身も、この様な衝動にかられて、食べ物を味わうこともなく、ただ空しく欲望を満たすためだけに、喜びもなく費やしてしまった、と言う経験も、人生のうちにおありになったかもしれません。しかしイエス様は、私たち人間が食べたり飲んだりすることによって、本当に喜ぶことが出来るのだということを、言われています。先ほど紹介したネヘミヤ記の箇所だけではありません。又、イエス様ご自身も、旅をしていたときに、しばしば旅人として家に招かれて、家の人たちと共に食べたり飲んだりすることを喜ばれたのでした。**

**そして、めとったり嫁いだりということについては、聖書は、夫婦となった者が、この地上で、キリストの愛を表現する器として、最後まで充分に用いられなさいと語っていて、夫婦の生活にまつわる喜びと試練について語っています。**

**イエス様が再臨される、その永遠の喜びの時は、十字架の苦しみの後に訪れます。私たちが、今、終末の日にイエス様にお会いするために用意をしていくということは、今、自分に与えられている日常の生活や人生を、これから聖書に書いてある御言葉に聞きながら、一つ一つの出来事が主イエスによって知られ見られ祝福されているということをわきまえて、行っていくということです。**

**私たちは、イエス様がお与えになる試練や苦しみをも、その一つ一つを味わって参りたいと願います。私たちは、イエス様からの試練や苦しみを避けてやり過ごそうとするとき、かえって、終末の時に感じられる何とも言えない不安感や絶望感に負けてしまうでしょう。しかし、イエス様はご自身が十字架の苦難の死と復活を成し遂げられたゆえに、次の様に私たちに言って下さいます。あなた方を耐えられないような試練に遭わせることはせず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をもあなた方に備えよう、と。**

**私たちは、イエス様のこの言葉を信じて、終末の時が感じられる今この時を、御心に適って、食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしながら、イエス様が定められた最後の時迄、イエス様の道を踏み外すことなく、歩み通して参りたいと祈り願います。**

**祈り**

**父なる神よ、あなたは今の時代に、私たち一人ひとりに、御子イエス様をお与えになられました。その幸いを覚え、あなたに感謝と賛美を捧げます。「あなたの救い主イエス様が、お生まれになりました。どうかあなたもイエス様を信じて下さい」と、隣人たちに告げ知らせる福音伝道の業を、私たちが喜んで行えますよう、私たちの喜びを、増し加えて下さい。**

**ガザ地区、イスラエルにおける戦いが、再開されてしまいました。どうか主よ、私たちに一時の平和ではなく、永遠の平和をお与えください。私たちが最早、戦いを学ぶことがないよう、あなたの平和のうちに留まらせて下さい。**

**主よ、どうか私たちの日常生活を、見守り祝福して下さい。日々の労働のうちに生み出される産物を、あなたの栄光の為に用いることが出来ますように。ノアの箱舟をあなたが祝福して用いられたように、私たちの手の業をも、あなたが祝福し、豊かに用いて下さい。**

**体の弱きを覚えている方々を覚えます。どうか主の癒しと慰めがお一人お一人にありますように。あなたを信じて、あなたを避けどころとして生きる全ての人が、最後まで救われ、永遠の祝福の主の日を迎えることが出来ますように。**